

千葉県レスリング協会【昭和 53 年(1978)～平成 9 年(1997)】

(1) 協会創成期の歩み

千葉県とレスリングの関係は、千葉中学校で柔道を行っていた市原要が中央大学でレスリング部に入部したことから始まった。その後、彼の勧誘により、千葉中学校の今井博久、石井庄八も中央大学でレスリングを始めたことにより千葉県のレスリングは中央大学において芽を吹き出したのである。同じ時期、佐倉中学校出身の福田健三も中央大学に在籍しており、昭和 21 年 12 月頃から母校でレスリングの指導を始めた。昭和 23 年の全国高校レスリング大会に佐倉高等学校が出場し、それが本県高校レスリング部の最初の公式試合となった。

同年の第 3 回国民体育大会では、一般個人フライ級で今井博久が 2 位に入賞したが、彼は自費参加であった。国民体育大会に参加するためには県体育協金の下部組織であるレスリング協会が必要であり、そこで船橋市に在住していた早稲田大学の 08 西出武が中心となって、協会設立の準備に取りかかった。この西出武の努力と、同じ早稲田大学の 08 である増富省一、新崎晃(旧姓道明晃)、さらに慶應大学 08 菊間寅雄などの努力により、協会設立の運びとなったのである。こうして昭和 24 年 5 月、市原要、今井博久、石井庄八の母校である千葉高等学校講堂において発会式が行われた。そして本県初のレスリング公開試合も行われ、レスリングの根が本県に植え付けられたのである。昭和 27 年 6 月 3・4 日の両日、青山レスリング会館においてオリピッタ予選が行われ、石井庄八がパンタム級で優勝し日本代表選手に選ばれた。ヘルシンキ大会では 16 年振りに五輪旗のもとに戦いを進め、特に石井庄八は世界の強豪を薙ぎ倒し、北欧の地に日章旗高々と掲げたのである。日本選手国にとってただひとつの金メダルは、戦後の日本国民に力と勇気と自信を与えたのである。

(2) 八千代松陰高校にレスリング部創設

若湖国体後、一般の選手だった教員が高校生の指導に専念できるようになり、各校の内容も充実してきた。また、教員採用試験合格や転勤により実施校も着実に増えてきた。しかし、実施校数の割には安定した力が伴わなかったのが実情であった。そこに昭和 53 年八千代市に創設された八千代松陰高校が漸規加盟した。初年度より、運動能力が高く格技センスの良い多くの選手を抱えていた八千代松陰高校は、山口久太校長の陣頭指揮のもと、組織としての後押しも強力であった。指導者八木光は、八千代松陰高校での全国大会一番乗を目指して、日々血の滲むような練習を行い、選手も良くなっていった。そして、創部 3 年目の昭和 55 年に全国総体学校対抗戦に初出場し、見事ベスト 8 に入賞することができた。さらにその年の第 35 回栃木国体において、少年グレコローマンスタイル 87kg 級に出場した佐藤秀男は危なげなく優勝し、八千代松陰高校初の全国制覇に輝いたのである。

山口校長は、当時日本体育協会の国体委員長の重責を担い、栃木国体の開閉会式では天皇陛下への説明役をしており、自校の生徒の吉報を聞き大変喜んだ。彼は松陰高校創設時より文武両道をモットーに、全ての運動部が全国大会出場を目指し、日本一になるよう、機会がある度に力説した。これは彼の今までの経験、実績からすると十分可能なことであった。また、レスリング部指導者の八木も常に全国大会を目標とし、学校対抗戦では14回出場（平成8年現在）その内の7回はベスト8入りする全国クラスの強豪チームに成長した。特に、昭和61年に松陰中学より入学した藤田和之は、群を抜いて強かった。彼は、中学時代はサッカー部に所属して活躍していたが、高校入学と同時にレスリング部に入部した。ずば抜けたパワー、スピードに加え、豊富な練習量で鍛えられた結果、今までにない重量級レスラーに成長した。2年生での関東大会優勝を皮切りに、全国総体3位、沖縄国体、新潟選抜大会での優勝で藤田の名は高校レスリング界に一躍轟いたのである。3年生になってからは全く無敵で、同階級の選手は藤田を見ただけで萎縮してしまう程であった。その年は予想通り全国総体、国体と圧倒的強さで優勝し、3月の全国選抜優勝と合わせて三冠王に輝いた。また、オーストリアで開催された世界ジュニアレスリング選手権大会に出場し、重量級で高校生としては初の第6位に入賞した。日本大学入学後も着実に力をつけ、インカレ四連覇、大学選手権二連覇（3年、4年次）、国体優勝（4年次）と輝かしい成績を残した。卒業後は、最大の目標であるオリンピック出場のため、練習環境の整っている新日本プロレス職員として、練習を続けた。平成7年の全日本選手権兼アトランタオリンピック最終予選においては、順当に勝ち進み優勝することができた。しかし、オリンピックに出場するためには、さらに中国で行われるアジアレスリング選手権大会において4位内入賞が条件であった。彼の階級100kg級は強豪がそろい、自分の持てる力を最大限に出し切り戦ったが、出場資格を獲得することはできなかった。

(3) 鈴木賢一アトランタオリンピック8位入賞

鈴木賢一が千葉県立泉高校に入学したのは昭和59年である。泉高校レスリング部顧問浅野修は、入学時より身長、体重で他の生徒より秀でていた鈴木に目をつけ、レスリング部に入部するように勧誘したが、なかなか良い返事は返ってこなかった。しかし、浅野は鈴木を口説き落とし、焦ることなく基礎から一つ一つ、将来を見据えた指導をした。高校時代は大きな大会での優勝はなく、国体3位が主な成績である。高校卒業後の進路については、レスリング部顧問、担任と相談した結果、大学でもう一度レスリングに挑戦することになり、早くから熱心にスカウトしてくれた藤沢信雄監督の大東文化大学に進学することになった。

大学のレスリング部は大変厳しく、まだ体力・技術ともに劣り、先輩も知人もいない合宿所生活は、これまでの人生にはなかった辛く苦しいものとなった。恩師浅野に相談に行き、励まされたことも何度かあった。辛抱の甲斐あって、鈴木は大学3年生の全日本学生選手権で130kg級のフリー、グレコローマン両スタイルにおいて見事タイトルを手

入れることができたのである。この頃から鈴木は安定した力を発縛するようになり、日本の重量級選手の中でも攻守ともに備わった選手に成長した。その翌年も全日本学生選手権グレコローマンで優勝して、学生生活を締め括った。

大学卒業後は他県から国体強化選手として勧続きれていた。ちょうどその折、恩師浅野に早稲田大学での先議である宮野秀文を紹介され、「仕事を覚えながらレスリングを続けるのが本当の社会人スポーツの在り方」という浅野の言葉に感銘を受けた。そして宮野が社長の読売千葉広告社(千葉市)に就職し、仕事をしながらオリンピックを目指すことになった。平成3年の石川国体においてグレコローマンスタイル 130kg 級で初優勝、その後山形国体、東四国国体と3年連続で優勝した。全日本選手権においては平成4年に初優勝し、その年イランで開催されたアジア選手権で銀メダルを獲得した。そして遂に夢にまで見たオリンピック出場の切符を手に入れたのである。しかし、パルセロナオリンピックでは惨敗であった。まだ国際舞台での経験が乏しく力を十分に発揮できないまま2回殺で敗退してしまったのである。

大会後、次のオリンピックのことは考えていなかった。だが、職場の方の厚意や、宮野社長の「悔いの残らぬよう精一杯がんばってみろ」という言葉に励まされ、現役を続けることにした。平成6年には広島アジア大会銀メダル、ハンガリーでのワールドカップ5位入賞と、国際大会でも実績をあげてきた。アトランタオリンピックの前年に全日本選手権で優勝した鈴木は、オリンピック出場を賭けて中国で開催されたアジア選手権に出場した。オリンピック連続出場のためにはこの大会で3位以内に入賞しなければならず、しかもこの大会には旧ソビエト連邦の強豪選手が国名を変えて複数出場していたのである。参加選手を過去の成績を考え、強さの順に序列をつけると、どうみても3位以内にはならず、奇跡が起きることを願って出場した鈴木であった。ところが彼は大変な強運の持ち主であった。1回戦は、くじ運良く格下の台湾の選手と対戦しフオール勝ちしたのであった。2回戦のイラン選手との対戦が勝負であった。立て続けに8ポイント先取され、あと2ポイントでテクニカルフオール負け寸前というところまで追い込まれ残り1分、誰もが鈴木オリンピック出場は消えたと思っていたところで、必殺の首投げが出たのだ。鈴木は相手をマットに沈め劇的な逆転フオール勝ちをおさめたのである。決勝では中国選手に敗れはしたものの、堂々たる準優勝でのオリンピック出場であった。アトランタでの仕上がりは順調であった。1回戦では、ハンガリーのケケシュに判定負けしたものの、2回戦はチュニジアのアヤリに対し終了間際に逆転し4対3で判定勝ちした。3回戦で体の疲れている時に不戦勝(bye)がきたのも鈴木を楽にした。4回戦のタジキスタンのドクバリには一方的な判定勝ちで5回戦に進んだ。ここで勝てばメダルに手が届く所まで来ている。相手は今回の銅メダリスト、モルダビアのムレイコであった。残念ながら力、技ともに劣勢でテクニカルフオールで敗れた。鈴木は7・8位決定戦に回りスウェーデンの元世界チャンピオン、ヨハンセンと対戦したが、力及ばずフオール負けをした。しかしながら、日本人でこの階級での8位入賞は、十分に評価で

きるものである。鈴木は現在、千葉市内でちびっ子レスリングの指導をしている。アトランタでの鈴木の高躍に、子供たちは自分自身の事のように喜び明日のチャンピオンを目指してレスリングの練習に取り組んでいる。

② 組織

平成9・10年度協会役員表

| | |
|------|---|
| 名誉顧問 | 高積誉富、相原秀一郎 |
| 名誉会長 | 嶋田治朗 |
| 顧問 | 保岡睦朗、鈴木武男 |
| 会長 | 中村克几 |
| 副会長 | 杉山忠男、倉石昇 石川忠男、宮野秀文 |
| 理事長 | 宮内孝憲 |
| 副理事長 | 関下裕文、中野由明 |
| 事務局長 | 斎藤 修 |
| 常任理事 | 長谷川昌雄、永井宣彦、大山昌則、磁貝頼秀 渡部弘道、渡辺喜彦、久保繁蔵、石渡三津夫 田中義雄、豊島順男、失後眞真、渡辺志野武 古矢浩祥、長妻美孝、海沼邦彦、松原正之 石塚和久 |
| 監 査 | 萩原昇、只縄治幸 |

③ 主な大会の成績等

(1) 全国高等学校総合体育大会

- 【第27回大会】昭和55年 会場地 池田
学校対抗戦 5位 八千代松陰高校
- 【第28回大会】昭和56年 会場地 水戸
個人対抗戦
56kg級 3位 小金井 太(八千代松陰高校)
- 【第29回大会】昭和57年 会場地 大口
学校対抗戦 5位 八千代松陰高校
- 【第30回大会】昭和58年 会場地 岐阜
学校対抗戦 5位 八千代松陰高校
個人対抗戦
65kg級 3位 古矢浩祥(八千代松陰高校)
- 【第32回大会】昭和60年 会場地 志賀
学校対抗戦 5位 八千代松陰高校
個人対抗戦
48kg級 2位 石塚和行(八千代松陰高校)

【第33回大会】昭和61年 会場地 鴨方

学校対抗戦 5位 八千代松陰高校

個人対抗戦

75kg級 3位 高橋和生(八千代松陰高校)

【第34回大会】昭和62年 会場地 旭川

個人対抗戦

56kg級 2位 岡安雄一郎(八千代松陰高校)

70kg級 1位 三井真吾(八千代松陰高校)

75kg以上級 3位 藤田和之(八千代松陰高校)

【第35回大会】昭和63年 会場地 三田

個人対抗戦

68kg級 2位 木村禎成(八千代松陰高校)

74kg以上級 I位 藤田和之(八千代松陰高校)

【第36回大会】平成元年 会場地 池田

個人対抗戦

50kg級 2位 窪木浩(八千代松陰高校)

【第37回大会】平成2年 会場地 名取

個人対抗戦

115kg以上級 1位 新明嘉規(八千代松陰高校)

【第39回大会】平成4年 会場地 日南

学校対抗戦 5位 八千代松陰高校

個人対抗戦

50kg級 1位 高牟礼 州(八千代松陰高校)

【第40回大会】平成5年 会場地 足利

個人対抗戦

54kg級 3位 福島武伯(八千代松陰高校)

【第41回大会】平成6年 会場地 滑川

学校対抗戦 5位 八千代松陰高校

【第42回大会】平成7年 会場地 赤碕

個人対抗戦

54kg級 2位 瀬能陽一(野田北高校)

【第43回大会】平成8年 会場地 甲府

個人対抗戦

115kg級 2位 増田貴之(八千代松陰高校)

(2) 関東高等学校選手権大会

【第24回大会】昭和53年 会場 足利工業大学

フリースタイル

56kg 級 3 位 菅原圭一(銚子商業高校)

75kg 級 2 位 長谷川滋(佐倉高校)

【第 25 回大会】昭和 54 年 会場 佐倉高校体育館

フリースタイル

48kg 級 3 位 山田俊平(八千代高校)

70kg 級 3 位 石毛昭弘(銚子商業高校)

75kg 級 1 位 町田清雄(銚子商業高校)

グレコローマンスタイル

48kg 級 1 位 高地伸夫(習志野高校)

【第 26 回大会】昭和 55 年 会場 青少年総合センター東京都オリンピック記念会館

フリースタイル

48kg 級 2 位 桜井義樹(八千代松陰高校)

56kg 級 3 位 田中雅之(銚子商業高校)

65kg 級 1 位 越川 哲(銚子商業高校)

70kg 級 2 位 高橋康博(八千代松陰高校)

75kg 級 3 位 碓井元(八千代松陰高校)

75kg 以上級 3 位 佐藤秀男(八千代松檜高校)

グレコローマンスタイル

48kg 級 1 位 高地伸夫(習志野高校)

56kg 級 1 位 白土信行(銚子商業高校)

【第 27 回大会】昭和 56 年 会場 館林高校体育館

フリースタイル

56kg 級 3 位 小金井太(八千代松陰高校)

75kg 以上級 3 位 林 久晴(八千代松陰高校)

グレコローマンスタイル

65kg 級 1 位 宮城健志(習志野高校)

【第 28 回大会】昭和 57 年 会場 高萩市民体育館

フリースタイル

48kg 級 2 位 関根誠(野田北高校)

48kg 級 3 位 平野祐輔(八千代松陰高校)

60kg 級 2 位 福島康之(八千代松陰高校)

65kg 級 2 位 古市文雄(茂原工業高校)

70kg 級 3 位 真芽文博(八千代松陰高校)

グレコローマンスタイル

48kg 級 1 位 小川貴之(八千代松陰高校)

65 kg 級 1 位 竹内恭一(八千代松陰高校)

75 kg 級 1 位 長谷川幸雄(銚子商業高校)

【第 29 回大会】昭和 58 年 会場 飯能高校体育館

学校対技戦 3 位 八千代松陰高校

フリースタイル

65kg 級 1 位 古矢浩祥(八千代松陰高校)

70kg 級 1 位 小熊宏一(八千代松陰高校)

【第 30 回大会】昭和 59 年 会場 須玉町立総合町民体育館

フリースタイル

48kg 級 3 位 谷ヶ崎哲也(八千代松陰高校)

60kg 級 3 位 岡田宏(八千代松陰高校)

【第 31 回大会】昭和 60 年 会場 足利市民体育館

フリースタイル

52kg 級 1 位 谷ヶ崎哲也(八千代松陰高校)

75kg 級 2 位 大和和彦(泉高校)

75 kg 以上級 2 位 尾崎幸雄(松戸商高校)

グレコローマンスタイル

52kg 級 1 位 田辺厚志(八千代高校)

【第 32 回大会】昭和 61 年 会場 佐倉市民体育館

学校対抗戦 3 位 八千代松陰高校

フリースタイル

75kg 級 2 位 鈴木研吾(八千代松陰高校)

81kg 級 1 位 高橋和生(八千代松陰高校)

81kg 級 3 位 永田裕志(成東高校)

87kg 以上級 3 位 鈴木賢一(泉高校)

【第 33 回大会】昭和 62 年 会場 駒沢オリンピック公園体育館

学校対抗戦 2 位 八千代松陰高校

フリースタイル

56kg 級 2 位 岡安雄一郎(八千代松陰高校)

70kg 級 1 位 三井真吾(八千代松陰高校)

81kg 級 1 位 藤田和之(八千代松陰高校)

87kg 級 2 位 菊屋和男(八千代松陰高校)

【第 34 回大会】昭和 63 年 会場 館林城沼総合体育館

学校対抗戦 3 位 八千代松陰高校

フリースタイル

50kg 級 2 位 窪木浩(八千代松陰高校)

68kg 級 3 位 木村禎成(八千代松陰高校)

74kg 級 3 位 本部正道(渋谷幕張高校)

81kg 級 1 位 梅沢幸治(八千代松陰高校)

2 位 早川亮太(泉高校)

88kg 級 1 位 藤田和之(八千代松陰高校)

【第 35 回大会】 平成元年 会場 横須賀市総合体育館

フリースタイル

50kg 級 2 位 窪木 浩(八千代松陰高校)

68kg 級 1 位 戸恒亮一(佐倉高校)

74kg 級 3 位 本部正道(渋谷幕張高校)

115kg 級 1 位 新明嘉規(八千代松陰高校)

【第 36 回大会】 平成 2 年 会場 飯能市民体育館

フリースタイル

58 kg 級 3 位 吉田浩(佐倉高校)

81 kg 級 2 位 金井定己(野田北高校)

115kg 級 1 位 新明嘉規(八千代松陰高校)

【第 37 回大会】 平成 3 年 会場 水戸市民体育館

フリースタイル

54kg 級 3 位 小笠原賢一(西武台千葉高校)

68kg 級 2 位 小泉文人(八千代松陰高校)

74kg 級 3 位 飯山武信(野田北高校)

【第 38 回大会】 平成 4 年 会場 山梨学院大学古屋記念堂

フリースタイル

54 kg 級 3 位 木村勝也(布佐高校)

68 kg 級 3 位 峰村利数(西武台千葉高校)

81kg 級 3 位 押尾将史(佐倉南高校)

88kg 級 3 位 秋山和幸(西武台千葉高校)

【第 39 回大会】 平成 5 年 会場 足利市民体育館

フリースタイル

68kg 級 2 位 渡辺庸治(八千代松陰高校)

【第 40 回大会】 平成 6 年 会場 佐倉市民体育館

フリースタイル

58kg 級 2 位 福島武伯(八千代松陰高校)

115kg 級 2 位 舟山真志人(習志野高校)

【第 41 回大会】 平成 7 年 会場 駒沢体育館

フリースタイル

- 46kg 級 2 位 金清大介(関宿高校)
- 54kg 級 3 位 本田貴臣(八千代松陰高校)
- 115kg 級 2 位 増田貴之(八千代松陰高校)

【第 42 回大会】 平成 8 年 会場 横浜文化会館

フリースタイル

- 46kg 級 2 位 金清大介(関宿高校)
- 54 kg 級 3 位 宮崎恵介(八千代松陰高校)
- 115kg 級 3 位 増田貴之(八千代松陰高校)

グレコローマンスタイル

- 63kg 級 1 位 戸張正広(西武台千葉高校)

【第 43 回大会】 平成 9 年 会場 館林城沼総合体育館

フリースタイル

- 46kg 級 3 位 大迫博文(八千代松陰高校)
- 50kg 級 2 位 小澤勇介(八千代松陰高校)
- 3 位 金清大介(関宿高校)

グレコローマンスタイル

- 50kg 級 1 位 大崎翼(野田北高校)
- 54 kg 級 1 位 戸邊隆之(野田北高校)
- 58kg 級 1 位 村瀬健(西武台千葉高校)
- 81 kg 級 1 位 石川英司(佐倉南高校)
- 88kg 級 1 位 細谷勇(佐倉南)

(3) 干事県中学校レスリングの歩み

昭和 44 年 12 月、関下裕文教諭により、関宿町立関宿中学校に、全国の中学校に先駆けてレスリング部が創部された。全くのゼロからの出発で、レスリングマットもなく、砂場にむしろを敷き練習は行われた。泥まみれになって練習に取り組む様子を見て興味を持った生徒も加わり、部員は増えていった。そして対外試合にも参加できるようになり、昭和 45 年 12 月には、茨城大学で開催された東関東中学校親睦レスリング大会で初優勝した。

長い期間、県内中学校におけるレスリング実施校は、関街中学校だけであったが、関下の野田市立第一中学校への転勤で 2 校日が誕生した。その後、レスリング経験者が大学を卒業して、指導者として中学校に戻った事や多くの方々の理解や協力によりレスリングは県内各地に普及していった。

全国中学校レスリング選手権大会での、千葉県選手の成績は輝かしいものがあり、メダル獲得数は、平成 8 年度現在、金 36 個、銀 56 個、銅 45 個と、全国第 1 位である。また、平成 8 年度全国中学校大会で優勝した和田宗法(木間ヶ瀬中)は、最優秀選手賞を

受賞している。

(4) 全国中学校レスリング選手権大会

【第2回大会】昭和51年 開催地 水戸

75kg 以上級 1位 染谷徹(野田一中)

【第5回大会】昭和54年 開催地 水戸

40kg 級 1位 本館慎一(野田一中)

43kg 級 1位 関根誠(野田一中)

【第6回大会】昭和55年 開催地 水戸

40kg 級 1位 飯沼勝弘(野田一中)

48kg 級 1位 関島靖之(野田一中)

63kg 級 1位 古矢浩祥(野田一中)

【第8回大会】昭和57年 開催地 水戸

38kg 級 1位 石塚和行(野田一中)

43kg 級 1位 谷ヶ崎哲(野田一中)

45kg 級 1位 坂巻三郎(野田一中)

51kg 級 1位 瀬戸口雅昭(野田一中)

【第9回大会】昭和58年 開催地 水戸

35kg 級 1位 大久保茂(野田一中)

73kg 級 1位 新井康男(野田一中)

【第10回大会】昭和59年 開催地 水戸

35kg 級 1位 朝比奈巖(野田一中)

48kg 級 1位 岡安雄一郎(野田一中)

68kg 級 1位 三井真吾(佐倉市立佐倉中)

【第11回大会】昭和60年 開催地 水戸

38kg 級 1位 朝比奈巖(野田一中)

【第12回大会】昭和61年 開催地 水戸

38kg 級 1位 高須賀健(野田一中)

40kg 級 1位 竹内俊明(野田一中)

42kg 級 1位 井上威(野田一中)

45kg 級 1位 伊藤弘之(野田一中)

48kg 級 1位 窪木浩(八千代松陰中)

51kg 級 1位 吉成雄一(関宿町立木間ヶ瀬中)

63kg 級 1位 坪井尚也(佐倉市立上志津中)

68kg 級 1位 吉沢亮介(佐倉市立上志海中)

73kg 以上級 1位 新明嘉規(佐倉中)

【第13回大会】昭和62年 開催地 水戸

- 47kg 級 1 位 宮内智也 (佐倉中)
 51kg 級 1 位 吉成雄一(木間ヶ瀬中)
 60kg 級 1 位 山田幹司(木間ヶ瀬中)
 70kg 級 1 位 小菅通雄(木間ヶ瀬中)
 95kg 級 1 位 新明嘉規(佐倉中)
- 【第 14 回大会】昭和 63 年 開催地 水戸
 60kg 級 1 位 奥田哉志(野田一中)
- 【第 15 回大会】平成元年 開催地 水戸
 43kg 級 1 位 十文字貴信(木間ヶ瀬中)
 55 kg 級 1 位 野口朋明(木間ヶ瀬中)
 65 kg 級 1 位 峰村利数(木間ヶ瀬中)
- 【第 16 回大会】平成 2 年 開催地 水戸
 65kg 級 1 位 高橋正樹(木間ヶ瀬中)
- 【第 17 回大会】平成 3 年 開催地 水戸
 65kg 級 1 位 染谷陽介(木間ヶ瀬中)
- 【第 18 回大会】平成 4 年 開催地 水戸
 55kg 級 1 位 野入明(野田一中)
- 【第 19 回大会】平成 5 年 開催地 水戸
 76 kg 級 1 位 山口泰幸(松陰中)
- 【第 21 回大会】平成 7 年 開催地 水戸
 35kg 級 1 位 高橋智大(野田市立編田中)
 95kg 級 1 位 伊藤智己(野回一中)
- 【第 22 回大会】平成 8 年 開催地 水戸
 43kg 級 1 位 和田宗法(木間ヶ瀬中)
 83kg 級 1 位 大勢持佑輝(野田一中)

関東中学後レスリング大会(県単位で対抗戦を行う)

- 【第 1 回大会】平成 2 年 会場 水戸県立スポーツセンター
 千葉県チーム準優勝
- 【第 2 回大会】平成 3 年 会場 木間ヶ瀬中学校体育館
 千葉県チーム準優勝
- 【第 3 回大会】平成 4 年 会場 壬生高等学校
 千葉県チーム優勝
- 【第 4 回大会】平成 5 年 会場 千代田町立体育館
 千葉県チーム準優勝
- 【第 5 回大会】平成 6 年 会場 六ツ川高等学校体育館

千葉県チーム優勝

【第6回大会】平成7年 会場 大森工業高等学校体育館

千葉県チーム優勝

【第7回大会】平成8年 会場 水戸県立スポーツセンター

千葉県チーム優勝

(5) 千葉県少年レスリングの歩み

昭和57年9月、関下裕文の助言、指導のもと、田中文夫により関宿町立木間ヶ瀬小学校にレスリング部が誕生した。翌年には全国少年レスリング大会に初出場し、レスリング部員も着実に増え、技術的にも高くなってきた。昭和59年の全国大会では3名の優勝者を出し、木間ヶ瀬小学校の名を高めた。全国大会団体の部でも昭和61年、62年、平成2年に第3位の好成績をおさめている。千葉県小学生大会は昭和60年に第1回大会が開催され、現在12回に至っている。参加チームも10チームになり、県内各地域にレスリングが根付いてきてはいるが、全体の参加人数は横這い状態にあり、今後の都員数確保と場所の確保がクラブ存続の課題になると思われる。そういう状況ではあるが、指導者の熱心な指導により全国大会において毎年数名の児童が優勝を遂げ、奨励賞も受賞している。

(8) 千葉県小学生レスリング大会

【第1回大会】昭和60年 会場 佐倉高等学校

優勝 木間ヶ瀬小レスリングクラブ

【第2回大会】昭和61年 会場 木間ヶ瀬小学校

優勝 木間ヶ瀬小レスリングクラブ

【第3回大会】昭和62年 会場 松戸市小金原小学校

優賞 木間ヶ瀬小レスリングクラブ

【第4回大会】昭和63年 会場 野田市民体育館

優勝 木間ヶ瀬小レスリングクラブ

【第5回大会】平成元年 会場 佐倉高等学彼

優勝 木間ヶ瀬小レスリングクラブ

【第6回大会】平成2年 会場 関宿町立二川小学校

優勝 木間ヶ瀬小レスリングクラブ

【第7回大会】平成3年 会場 松戸市運動公園体育館

優勝 木間ヶ瀬小レスリングクラブ

【第8回大会】平成4年 会場 野田市総合公園体育館

優勝 二川小レスリングクラブ

【第9回大会】平成5年 会場 佐倉高等学校

優勝 二川小レスリングクラブ

【第10回大会】平成6年 会場 木間ヶ瀬小学校

優勝 松戸少年レスリングクラブ

【第11回大会】平成7年 会場 松戸市運動公園体育館

優勝 松戸少年レスリングクラブ

【第12回大会】平成元年 会場 野田市総合公園体育館

優勝 松崎 Jr レスリングクラブ

トピックス

平成6年ローマで開催された第3回マスターズ世界選手権大会に参加した宮内孝憲(現協会理事長)は、前年のカナダ大会に引き続き2連覇を果たした。この大会の参加者には白髪や頭の薄い人も多く見られるが、レベルは高く、元五輪、世界選手権優勝者も出場している。選手の中には、ポスニア・ヘルツゴビナの戦火をくぐって参加した人をはじめとして、多くの困難に直面しながら一つの目標に向かって努力している人達がいる、宮内は母校の佐倉高校や佐倉南高校でトレーニングを行っている。県の強化練習においても自ら率先してマットに上がり、息が切れるまで練習を続けている。彼にとってレスリングは生涯スポーツであり、人生そのものである。今なお第一線で活躍するその姿は、千葉県レスリング界の宝である。

-